



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

～Rotary Shares～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年3月24日

No. 29

『一歩一歩進もう』

～Let's Move Forward Step by Step～
東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T



平成20年3月10日

卓話『日本経済と改革の行方』

慶應義塾大学教授・アカデミーヒルズ理事長

竹中 平蔵 様



皆さんこんにちは、竹中平蔵でございます。1年半近く前に大臣も参議院議員も辞めて大学に戻らせていただきました。その意味では大変自由ですので、今日は思い切っているなことを申し上げたいと思います。

丁度2週間前、ロンドンエコノミストでJAPAINという特集記事が組まれました。JAPANのAとNの間にIという文字を入れて、痛い、この国は痛い。日本のことを散々こき下ろしているわけです。同誌が一国を名指しでここまで批判するのは非常にまれなことだそうです。ことほど左様に日本の経済、政治、きわめて厳しい状況にあるというのが現状だと思えます。

実はここ2ヶ月ぐらい韓国の新聞やテレビから私に対する取材依頼がものすごく増えました。イ・ミョンバク大統領が小泉さんを意識した経済改革をやろうとしていて、韓国の経済界、ものすごい盛り上がっているんです。そして日本の経験を聞きたいというので私のところに取材に来ているということが分かりました。今、イ大統領はセブンフォーセブンという目標を掲げています。7、4、7。韓国はこれから7%成長する。1人当たりGDPを4万ドルにする。結果的に韓国のGDPは世界で7位

になる。今までのノ・ムヒョン大統領は北にやさしく、経済についてはそれほど熱心ではなかった。その不満が溜まっている中で、経済を強くする、北に対しても言うべきことは言う、そういう新大統領を迎えて盛り上がっているわけです。

昨年日本の株価は11%下がりました。サブプライムの影響だと言う人も多いんですが、そうではないわけです。サブプライムの影響を一番受けたアメリカの株価は年間で6%上がっています。つまり改革の勢いが落ちて、このままでは日本の経済は再び駄目になるのではないかとという懸念が市場に表れている。実はそれと全く逆のことが2005年に日本で起きています。2005年は郵政民営化を決めた年です。国民の熱烈な支持で郵政民営化法案が通った勢いを受けて政府系の金融機関である政策投資銀行や商工中金も民営化を決めました。これで日本は変わると思ったあの年、日本の株価は1年間で42%上がりました。日本の経済は本来強いものを持っているんです。だから改革してそれが前向きに発揮されれば経済よくなるとみんな分かっている。だから株価も40%上がる。でも改革が進まないと厳しい世界の中で地位を後退させていく。だから株価は下がる。非常に分かり

やすい構図だと思いません。ニューヨークで、今シティバンクの重役をしてられるルービン前財務長



官にお目にかかりました。サブプライム問題でアメリカの経済はどうなると思いますかと聞きました。アメリカは財政も金融も動員した政策対応をやるから、そんなに深刻なことにはならないが長引くだろうというのがルービンさんの意見でした。

先ほどの「JAPAIN」、いろんなことが書かれています。中に3人の罪びと、日本経済を厳しい状況にしつつある3人が挙げられています。まず第1に安倍総理。小泉改革をうまく引き継げなかった。改革すると言ったけれども関心が憲法の見直しとか戦後政治の総決算とかナショナリスティックな方に行って国民からそっぽを向かれた。2番目はグループ。この表現が面白い。エインシェント・クロコダイル・オブ・LDP。自民党の化石ってというような意味ですかね。中曽根さん、森さん、読売のナベツネさんの3人。これ私ではなくロン



ドンエコノミストが言っているんですよ。まあ皆さんが評価してください。3番目に民主党の小沢さん。これは参議院で多数を取っているにも拘らず政策をきちっと議論していないということ。まあ1つの見方ではあります。

最近、見聞きした話で、やっぱり日本ってすごいと思うことがいくつかあります。分かりやすい例でいうとミシランの3つ星レストラン。世界で68あるうち8つが東京にあるわけですね。パリより多い。これやはり私たちの経済力を背景にした文化の層の厚さと強さを示している。2番目、こういう計算をした人がいます。GDPを生み出すためにはCO₂を排出しなきゃいけない。日本はこの効率がものすごくいい。アメリカ、EUの2倍、中国、インドの9倍の効率です。もし今、世界中が日本と同じ技術を持ったら、世界のGDPを生み出すのに排出されるCO₂は67%減らすことができる。これはやはり日本が持っている技術の群を抜いた高さ、そしてそれだけに日本はこの面で世界に貢献しなければいけないという責任も同時に示していると思うんです。

元々日本の経済はデュアルエコノミーでした。日本にはトヨタ、ホンダ、パナソニック、ソニーなど世界に冠たる企業がある一方で、農業の一部に象徴されるように、競争力のない業種がデュアルで存在します。この生産性の高い部分から低い部分にうまくトランスファーが生じるような仕組み、政府、族議員、官僚が仲介して、それなりに調和されるような仕組みを私たちの社会は持っていました。しかしグローバルな競争が激しくなると、世界のトップ企業も、いつまでも弱い産業の面倒を見ていられなくなるんです。そこで新しい仕組みが必要です。私たちが行わなければいけない改革は、競争力のあるところはもっと強く、そして十分な生産性を上げていないところは、それなりに生産性を上げるようがんばってもらう。そのために民営化、

規制緩和が必要。それはごく自然の方向だと思えます。しかし今までの秩序が崩れるのは確かだから抵抗勢力が発生して既得権益を守ろうとする。それをぶち壊すといって小泉さんがある程度まで進んで、漸くこれからだと思ったところで改革の勢いが低下している。

1990年代を通して日本の経済成長率は1%、その前の80年代は4.5%だったんです。4.5%の成長だと17年ぐらいでGDPが2倍になりますが、1%成長だと70年かかります。やっぱりものすごい経済の景色が変わる。失われた10年という所以。それを小泉内閣の下で不良債権の処理をして、そのとたんに2%強の成長が戻ってきました。私が金融担当大臣になったとき、銀行の不良債権の比率は8.4%。今は1.5%まで下がったんです。だから金融が正常化して普通の実力2%強の成長が戻ってきた。丁度1年少し前、私、総理になられてまだ間もない安倍さんにお目にかかって、安倍内閣の役割はこの2%の成長を更に2.5~3に上げることだと申し上げました。安倍さんは、それを目指してがんばるといってくださったんですが、残念ながら選挙に敗北して、今、福田内閣になっている。福田さんも改革したい思いは十分にお持ちだと思います。しかし今、福田内閣は大変です。1つは自民党の8割が福田内閣を担いだこと。つまり改革をしたい人だけじゃなくて改革をしたくない人たちも福田内閣を作ってる。2つにはとにかく参議院で野党が多数を制していますから、政府の中をまとめたところで国会が通りません。従って福田内閣はスローガンはあるけどもアジェンダがないままに推移して、改革の勢いが低下している。それを海外の投資家が見事に見透かして、今日のような状況になっているということだと思います。

日銀総裁の人事を例に日本の政策がいかに混乱しているかを申し上げます。皆さんは今の自民党の主張、民主党の主張、メディアの主張、そ

れそれぞれ思われますか。私は結論から言うと、自民党も民主党もメディアもおかしいと思います。



まず政府。日銀の総裁は人事権者である内閣が自らの責任と権限で決めればいいことですが、普通の人事と違うところは国会の同意を得なければいけないこと。そうすると人事権者は同意を求める相手にはそれなりの説明責任が生じます。何を説明すべきなのか。それは次に任命する人に何を求めるかです。常識的にはデフレを克服すること、インフレにもしないこと、これが成果目標でしょう。それが政府から示されていないんです。成果目標が定まって初めて、じゃあそれができる人はどういう人なのかという要件が出てくる。これが人事のあるべきプロセスです。でも与党はその議論をしていません。何となく暗黙のうちに決めたように出てきた。では野党はどうか。一部のメディアには民主党も責任があるんだから対案を出せという議論がありますが、私はこれは違うと思います。人事権者は内閣なんだから、内閣から同意を持ちかけられるまで、どういう人がいいかということを野党が示す必要は一切ないと思います。しかし今のように政府から持ちかけられてそれを拒否する場合は、今度は野党にも説明責任が生じます。なぜ拒否するのか、私たちはこういう成果目標を求めている、そのためにこういう資質が必要だ、それを満たしていると思えないから反対する。これがあべき議論です。今、野党が言っているのは、財政と金融の分離だから財務省にいた武藤さんが総裁するのはよろしくないというものです。私はこれはおかしいと思います。もしそうなら、かつて財務大臣をやった人は金融担当大臣できなくなっちゃ



いますよ。そんなルールは政府の中にあるんですか。だからおかしいです。さあそれをコメントしているマスコミは何を言っているのでしょうか。一番言っているのは、日銀総裁のポストに空席を生じさせてはならない、そんなことをしたら日本売りが加速するという議論です。私も日銀総裁のポストに空白がない方がいいと思います。しかし皆さんは次のAとBとどちらがいいかと聞かれたらどう答えるでしょうか。とにかく空席を生じさせないためにあんまりよくない人を総裁にするのがA。任命が1ヶ月遅れるけどものすごくいい人を任命するのがB。私はBの方がいいと思います。重要なのは日銀に何を求め、総裁にどういう資質を求めるかという本質論です。マスコミもその議論を行っていません。与党も野党もマスコミも変な議論をしてるから、海外から見ると全く分からない。是非しっかりと議論をしていただきたいと思います。

日本の経済、アジェンダがないと申し上げましたけれども、じゃあどう作ったらよいのか。アジェンダというのは、私はボーリングのセンターピンのようなものだと思います。センターピンはすごく見えやすい。だから一般の人に見えやすい、分かりやすい政策。そしてセンターピンが倒れたら、その波及効果で次から次へピンが倒れていくという期待を持たせる政策です。じゃあどんなものが考えられるか。もっと他にいいセンターピンがあるかもしれないから皆さんで考えていただきたいんですが、私なら東京大学の民営化を主張します。なぜか。私たちの経済を強くしようと思ったら、知識経済の時代ですから強い大学がなければいけません。これは技術開発の上でも人材供給の上でも重要です。日本で一番強いといわれている東京大学。世界の大学ランキングがタイムから発表されていますが、東大は今17位です。世界2位のGDPを持つ日本のトップの大学は、最低限世界のトップ5に入ってもらわなければ困るのではないでしょ

うか。では東大を世界のトップ5に入れるために何をしたらいいか。私は東大を文科省の制約から全て解放してやるのがいいと思います。具体的には、今、全ての国立大学に運営交付金という補助金を出しているのをやめて競争的研究資金で出せばいい。大学にお金を出すんじゃなく、いいプロジェクトにお金を出す。競争が起って大学が強くなっていく。

もう一つ、私はいわゆる完全なオープンスカイ政策をすぐにもとるべきだと思います。空港の自由化です。私は東京という街は過去10年ぐらいの間にすごくよくなったと思いますが、まだ不便なことがあります。それは、香港やシンガポールに日帰り出張ができないことです。飛行機乗ってるのが4時間ですから、朝7時に出て夜中の11時ぐらいに帰ってくれば、みっちり向こうで仕事ができるじゃないですか。でもできないんです。なぜか。羽田が国際空港として使えないから、かつ24時間開いていないから。そういうふうに空港をもっと自由に使ってもらおうというのがオープンスカイ政策です。

さっき、与野党、衆参でねじれていて野党に反対されると法律が通らないから改革が難しいと言いましたが、このオープンスカイは法律事項ではありません。国交省がその気になればすぐできます。そういう観点からいうとやれることはたくさんあると思います。私1月の末にダボスで福田総理とご一緒しました。ダボスでの福田さんのスピーチは立派でした。日本はオープンです、どうぞ日本に投資してください。言って帰ってきたら国交省が空港施設に対する外資の規制をするという。空港は安全保障上必要で、そこに外資が入ると問題だから一定の規制を嵌めようと。すごいもってもらいやすいですね、でもトリックがあります。羽田空港を考えてください。羽田空港の滑走路や管制塔は国が持っているんです。羽田の空港施設は、私たちがチェックインするために行くあの空港ビル、

商業施設なんです。商業施設に外資が入って何が安全保障上の問題なんだろうか。全く意味が分からない。もうこれは明らかですね。空港、特に羽田空港というのはすごい儲かっているビルで、そこに利権がいっぱい絡まっている。これ有名な話ですけども、空港にマッサージチェアをレンタルしている会社のオーナーは、ある有力代議士の息子であるとか、こういうのがものすごくあるんです。外資が入ると天下りもできなくなるし自分たちの利権がなくなると考えたんでしょう。だから理屈にならない理屈を立てて外資規制をしようとしてるとしか思えません。

私は今の日本の状況は大変厳しいけれども、しかるべき改革をやれば日本の経済には非常に強い潜在力があると信じて疑いません。そういうことも考えて何が一番問題かということ、私は、今の社会全体が持っている何かがあると必ず政府のせいにする、政府に頼る、人のせいにする風潮であると思います。

昨年、北康利さんが書いた福沢諭吉の本を読みました。福沢諭吉はどういう人であったか。当時、日本は独立を保てるのかということが最大の課題であった。しかし福沢諭吉はなんと言ったか。一個人の独立なくして一国の独立はない。国を独立させるためには、一個人、一個人が独立していなければいけない。だからみんなもっと勉強しろ。それがまさしく「学問のすゝめ」であったと思います。福沢諭吉は政府に対してはあまり文句を言っていないんです。国民に対して、しっかりしろと言っている。しかし今の風潮は全く逆ですね。何でも人のせいにする。当時「学問のすゝめ」は全部で340万部売れたんです。明治維新当時の日本の人口は3500万人。その国で340万部売れた。今で言えば1000万部の超ベストセラーですよ。しかもエッセーじゃなくて、経済論、政治論、国家論。私は福沢諭吉は偉大であったと思いますが、それ以上にそれを1000万部も読んだ日本国民が偉大であったと思います。ありがとうございました。